

令和2年度 第2回 学校運営協議会

日時：令和3年3月12日（金） 16：10～ 16：50

出席者：下城一、阿部力、萬谷恵三子、北瀬淳子、梶田菜穂子、石川慎二、河原克宣、長澤利恵子、磯貝久彦

○総合評価

委員：挨拶ができるようになったとありましたが、どのような取り組みをしてできるようになったのか聞いてみたかったです。挨拶とは何か、なぜ大事かという心を教えることが大切だと思います。オンライン授業でオンデマンドの割合は、どのくらいだったのか。オンデマンドは、何度も見れるので取り組みとしては面白いと思います。

教頭：授業をオンラインでやるには、インフラストラクチャーの整備がまだまだなので、オンデマンドになっていくのではないかと思います。

委員：進路において、推薦に逃げてしまうということですが、高校生で自分の将来を決めるのは難しいため、まずは基礎学力の向上を図って頂きたいです。旭高校は、就職や専門学校など様々な進路に進む生徒がいます。そのため、勉強しても周りに流されてしまうことが多いため、勉強するという雰囲気づくりをしてもらえると凄く助かります。学力も体育と同じくらい伸ばしてもらえると体育学校というイメージも子ども自身も変わると思います。

委員：ICTを使って課題を出すことが必要だと考えます。また、社会では文章を書くことは必要ですし、しっかり書けることが大切です。スマートフォンなど便利な世の中ですが、基本的なところを指導して頂きたいです。

委員：新型コロナウイルス下で正解がない中、進んでいったことが成果だと感じています。遅刻が減ったのは、学校に魅力があるからで評価できるころだと思います。学校に魅力があるからこそ登校しようという気持ちになったのではないのでしょうか。学校説明会でのコンペ開催は、楽しく、面白く、前向きでいいと思いました。ゴミ箱の廃止は、そこからSDGsの意識付け、入り口になっていくかもしれませんね。また、ゴミ箱の廃止を一斉にやる決断力はすごいと感じました。

委員長：私もゴミ箱の廃止は、感動しました。マスクを捨てることの防止にもなりますし、自分のことを自分で管理させるととてもいい機会だと思います。良いも悪いも「主体性」を学校の目標にしてきました。これをある種、考え、踏み出した1年でした。出来なかったことの影響も大きいけれど、それに対応していく必要性もあり、生徒を元気づけることも考えていかないといけないというこの1年は生徒も教員も頑張りました。感染者が出ていないことが何よりの成果です。

校長：正解のない中、職員の意見を集めながらやれることを模索しながらやってきました。それに応えてくれた生徒たちがいたというこの状況をうれしく思います。

副校長：これで令和2年度学校運営協議会を終了します。（閉会）